

2017 長野県教育委員会と上越教育大学連携による

# 教員研修講座

上越教育大学教職大学院、長野県教育委員会の連携による学校力・学力の向上を目指す研修講座を開設します。学校や教職員を取り巻く様々な教育課題が表出し、その早急な解決が求められています。長野県にとっての教育課題を決めだし、その解決に向けて6日間にわたり大学教授がそれぞれの研究をもとにわかりやすく語ります。実力向上を感じられる講座となることでしょう。あなたのご参加をお待ちしております。



会場

## 長野県総合教育センター

長野県塩尻市片丘南唐沢6342-4

日程

6/8(木)・16(金)・26(月)

7/14(金)・8/7(月)・9/15(金)

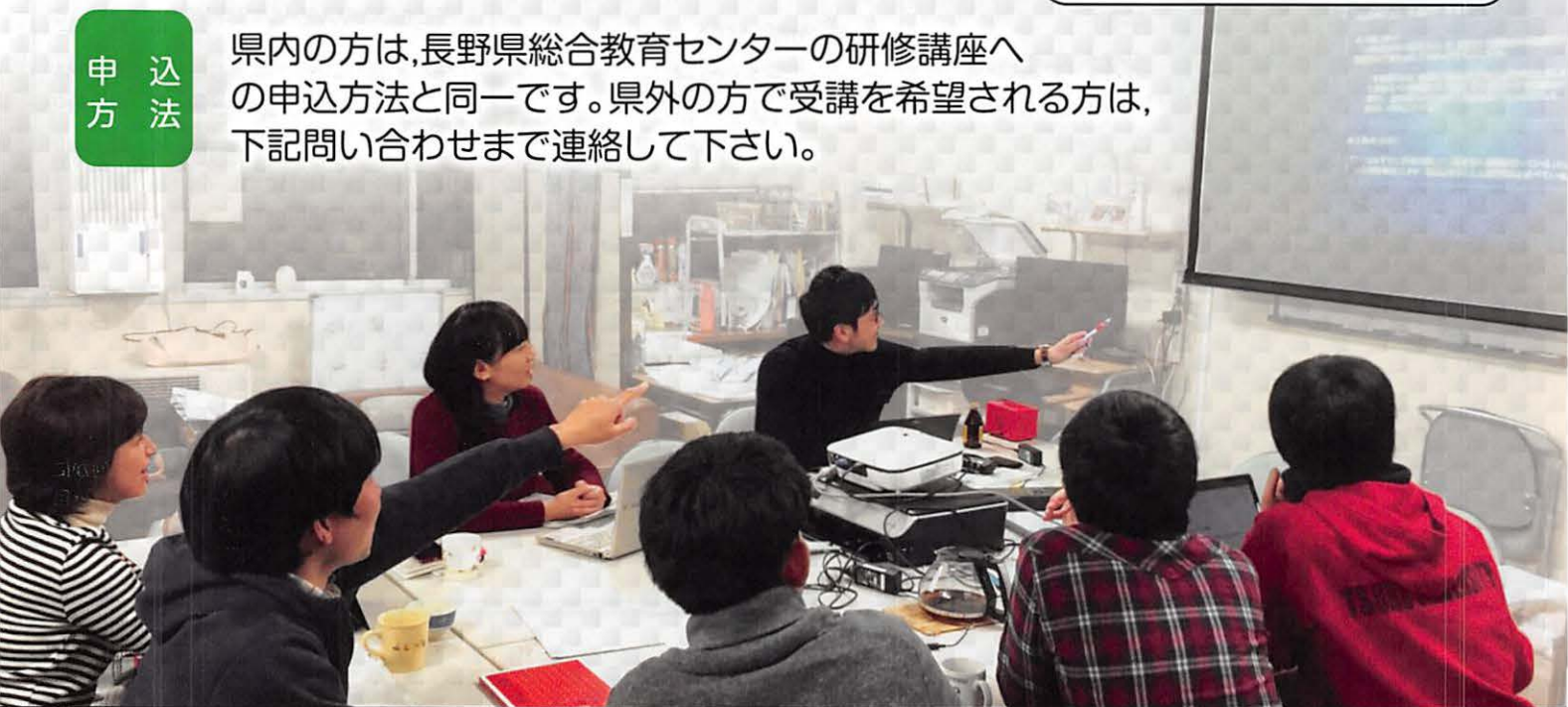
9:40~16:10 ※詳細は、総合教育センター発行の研修講座案内をご覧ください。

対象

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に勤務する教職員

申込方法

県内の方は、長野県総合教育センターの研修講座への申込方法と同一です。県外の方で受講を希望される方は、下記問い合わせまで連絡して下さい。



お問い合わせ

ご不明な点等ありましたら、E-mailでお問い合わせください。

E-mail: kiryu@juen.ac.jp

(上越教育大学大学院学校教育研究科(教職大学院) 教授 桐生 徹)



講座コード・講座名	担当	テーマ	研修の概要
「カリキュラム・マネジメント」 3-2-11-01 新しい方向性としての カリキュラム・マネジメント ～みんなで取り組もう カリキュラム・マネジメント～ <b>6月8日(木)</b> 定員20名	午前 西川 純 教授 (上越教育大学教職大学院)	カリキュラム・マネジメントって、何?	新しい学習指導要領の柱であるカリキュラム・マネジメント。 午前は、学校でカリキュラム・マネジメントに取り組むにはどうしたらいいか?ポイントは「何をすればカリ・マネ?」ではなく「何のためのカリ・マネ」なのです。 午後は、カリキュラム・マネジメントの視点から、教育課程と授業のつなぎ方を考えます。「教育課程は教育課程、授業は授業」という分離された状況を変えていきましょう。
	午後 松井 千鶴子 教授 (上越教育大学教職大学院)	教育課程と授業をつなぐカリキュラム・マネジメント	
「ICT活用」 3-2-11-02 ICTが苦手な人のための 初歩の初歩講座 ～ICT活用授業にチャレンジ～ <b>6月16日(金)</b> 定員20名	午前 片桐 史裕 准教授 (上越教育大学教職大学院)	iPadやiPhoneを用いたお手軽スクリーン投影術	事務業務以外にICTを活用したことのないというICTに苦手意識を持つ方のみ受講可能です。 授業で使うプリントを教室で拡大投影して説明したいときはありませんか?午前は、そんな時、重いPCを持ち運ばなくてもよい技を体感しましょう。 午後は、子どもたちがiPadを活用する授業を試みます。協働的にICTを活用するアクティブ・ラーニング授業の最初の一步を踏み出しましょう。
	午後 阿部 隆幸 准教授 (上越教育大学教職大学院)	楽しく子どもたちが授業で行うICT活用授業、最初の一步	
「学級づくり」 3-2-11-03 学力向上のための 学級づくり ～役割演技と協働性を高める 学級をめざそう～ <b>6月26日(月)</b> 定員20名	午前 赤坂 真二 教授 (上越教育大学教職大学院)	主体的な学びの時代の学級集団づくり	子どもの集団としての価値をいかに身につけられるのか? 午前は、子どもの主体性を引き出し、協働性を高めるには教室の環境設定が重要な鍵を握ります。これからの学級経営の充実を図るにはどうしたらよいのでしょうか。 午後は、道徳の教科が指すものとその効果について、「質の高い多様な指導方法」としての役割演技の演習を中心に実感することを目指します。
	午後 早川 裕隆 教授 (上越教育大学教職大学院)	いじめ問題への対応の充実と「特別の教科 道徳」	
「注目動向」 3-2-11-04 病気や障がいをもつ 子どもの教育支援 ～子どもが望む医療と 学校の連携～ <b>7月14日(金)</b> 定員20名	午前 北村 千章 講師 (新潟県立看護大学)	病気や障がいをもつ子どもの就学支援	子どもの次のステージには何が待ち構えているのか? 午前は、障がいをもつ子どもたちの学校での体験についてお伝えします。共につながってできる支援について考えましょう。 午後は、小児がん患児の教育体制や学校生活に関連した子どもの思いについて解説し、復学支援における学校と医療の連携について考えていきましょう。
	午後 大久保 明子 准教授 (新潟県立看護大学) 桐生 徹 教授 (上越教育大学教職大学院)	長期入院を要する子どもの復学支援	
「授業改善」 3-2-11-05 主体的・対話的で深い学びに 向かう授業づくり ～アクティブ・ラーニングの再考～ <b>8月7日(月)</b> 定員20名	午前 松沢 要一 教授 (上越教育大学教職大学院)	「疑問や問い」が生まれる算数・数学の授業づくり	主体的・対話的で深い学びの実現が求められています。 午前は、算数・数学科の学習過程で、「疑問や問い」が児童生徒に生まれるようにするために、どのような改善を図るかを考えます。 午後は、国語科における「深い学び」とは何かについて考えます。教材との対話・他者との対話・自己内対話によって主体的で深い学びに導く学習デザインについて語り合います。
	午後 佐藤 多佳子 准教授 (上越教育大学教職大学院)	対話を核とした国語科の学習デザイン	
「授業改善」 3-2-11-06 グローバル人材育成を 目指した授業づくり ～はじめの一步～ <b>9月15日(金)</b> 定員20名	午前 水落 芳明 教授 (上越教育大学教職大学院)	学び合いとICT活用で取り組む外国語活動	未来の子どもの姿を今論じましょう。 午前は、外国語活動に不安を感じる先生方と一緒に、学び合いやICTを取り入れて実践する外国語活動について考えます。 午後は、子どもたちが自分の足元をみつめながらも「地球市民」の一員としての生き方を考え、行動できるような学習デザインを考えましょう。
	午後 原 瑞穂 准教授 (上越教育大学教職大学院)	多文化多言語社会におけるグローバルでローカルな授業づくり	